

平成 24 年度 岡山大学大学院法務研究科  
法学既修者後期入試 試験問題

## 刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

### 解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 50 点、問題 2 が 50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目名も記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

**【問題 1】 以下の設問に答えよ。**

Xは、平成23年7月頃、自分の高級腕時計を同年9月末までの約束でAに貸していたところ、8月中旬、その時計を高額で買い取りたいという人が現れたので、所用のため、その時計を取り返さなくてはならなくなった。しかし、9月末まで貸すという約束だったので、事情を話してもAは返してくれないだろうと思い、Xは、Aの留守を見計らって、A宅に侵入して取り返そうと計画し、9月上旬のある日、Aの留守を見計らってA宅に侵入した。

Xは、A宅の居間で腕時計を見つけ、これをジャンパーのポケットに入れてA宅を出たところ、たまたまA宅を訪ねてきたBに出くわした。Bは、不審に思い、「あんた、いったい誰だ。ここで何をしていたんだ。」と問い質したところ、Xは、このままでは逮捕されてしまうと思い、走って逃げた。Bは、「こら、待て。」と言いながら、Xを追いかけて、100メートルほど追いかけたところでXを取り押さえた。

その頃、Yが、両者の近くを通りかかった。XとBとの間には面識はなかったが、YはXともBとも顔見知りで、日頃からBのことを快く思っていなかった。Yは、XがBに取り押さえられているのを見て、「こら、何をしてるんだ。」と声をかけた。Bが、「こいつは泥棒だ。警察につきだしてやる。」と言ったので、YはXに「本当か。」と聞くと、Xは、「Aの留守を見計らって、これ(時計)をもってきただけだ。」と答えた。Bは、「やはり泥棒じゃないか。さあ、時計を返せ。」といったので、Xは、時計を取り返されまいとして、Bに掴みかかり、仰向けに倒れたBに殴る蹴るの暴行を加えた。Yは、両者の言い分から、XがA宅から時計を盗んだのだろうと思い、Bを快く思っていなかったこともあり、Xが時計を取り返されまいとしているのに協力するつもりで、これに加功し、こもごも、Bに対し暴行を加えた。両名が2人で加えた暴行により、Bは全治1ヶ月の傷害を負った。

X、Yの罪責を論じなさい(特別法違反の罪を除く。)

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

**【問題 2】 以下の設問に答えよ。**

警察官Pらは、かねてから、けん銃密売の被疑者としてXに対する内偵を続けていたところ、Xがアタッシュケースを持って都内にあるビジネスホテルに投宿したのを確認し、ホテル客室内を捜索場所とする捜索差押許可状を得た上、ホテルに赴いた。Pらは、まず、同ホテルのフロントで支配人に事情を聞いたところ、Xは2階のツインルーム205号室に投宿していること、Xがチェックインした後、Xと交際中のY女が205号室に出入りしていることが判明した。また、205号室は通りに面した窓（タテ90センチメートル、ヨコ80センチメートル）が全開するタイプであることもわかった。Pらは、205号室のドア前で、「ルームサービスです。シーツの交換に来ました」と虚偽の事実を述べ、Xにドアを開けさせようとした。そして、Xがドアを開けるや、「動くな、警察だ。令状が出ている。けん銃を持っているだろう。」などと言って、ホテル客室内に押し入った。Pらは、興奮したXを制圧しながら令状を示し、部屋を見回したところ、同室内にいたY女がベッドの下に置かれたアタッシュケースを持って部屋を飛び出そうとしたため、これも制止して、アタッシュケースを机の上に置かせた。アタッシュケースは施錠されていたため、Pらは、「中を開けろ」とXに申し向けたが、Xはこれを頑強に拒否したので、Pは携帯していたドライバーでアタッシュケースの鍵をこじ開けたところ、中からけん銃2丁が発見されたため、これを差し押さえた。

本件においてPらが行なった、けん銃に対する捜索差押えは適法か。

《問題 2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

財産犯と共犯をめぐる基本的な事項（奪取罪の保護法益、事後強盗罪の成立要件、事後強盗罪と共犯など）を問うことにより、刑法理論に関する正確な理解をみるとともに、事例処理能力を試すものである。

問題 2

警察官が虚偽の事実を述べてホテル客室内に立ち入り、けん銃を差し押さえたとの事実関係につき、搜索差押許可状の執行方法として適法かどうかを検討させる趣旨で出題した。